JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	分野横断交流の場形成のためのボトムアップ協働
Author(s)	坂井，華海
Citation	年次学術大会講演要旨集，37: 160-161
Issue Date	2022-10-29
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/18515
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

１Ｂ１９

分野横断交流の場形成のためのボトムアップ協働

○坂井華海（熊本大学）
hanamisakai54@gmail.com

1. はじめに

「学際」や「異分野融合」などの語は盛んに言われるようになって久しく、その意味を知らない人はほとんどいない。しかし、「学際研究」「異分野融合研究」を「創出しよう」となった途端に、大学の中では不具合が生じやすくなる。例えば、手段としての「異分野融合」が目的化したり、お互いを知り合う機会としての交流の場が、形式化・形骸化してしまうというものだ。なぜ、このような実態が生じてしまうのかといえば、これらの企画を担っているのがいわゆる事務組織、対象者が研究者というある種の二項対立が常態化しているからではなかろうか。

本報告では、熊本大学において 2019 年 12 月から続いている Kumadai-Hub の取り組みを通して、大学における多様なステークホルダーの協働の可能性を示したい。

2. Kumadai-Hub 成立の経緯

Kumadai-Hub は、2019 年 12 月から続いている熊本大学に所属する「自称」若手研究者等の任意団体である。「自称」としているのは、一般に言われる若手の定義が曖昧なためで、団体では「フレッシュな気持ちを持っている人」ということを共通の理解として、メンバーが集っている。研究者やそれを取り巻く人たちの自由意志によって始まり、この 2 年余りで 70 名を超える人（令和 4 年 8 月現在）が参画している。

2019 年 12 月当初は、生命科学系（医学・薬学系）の若手研究者が情報発信について検討するミーティングで、研究室の壁を越えた交流の必要性について一定のコンセンサスが得られたこともあり、共同で運用する Twitter アカウントが作成された。不定期のミーティングを重ねる中で、キャンパス間の交流（熊本大学は大きくは 3 つのエリアにキャンパスが点在している）や分野を越えた連携の必要性が議論され、次第に理学・工学系の中でも比較的生命科学研究に近い研究者が参画するようになった。そして、最初のミーティングから 1 年が経過した 2021 年 1 月に、正式に Kumadai-Hub が誕生し、そこで初めて明確に“希望する”熊本大学に所属するすべての研究者が参画できる運用になった。

Kumadai-Hub の主な活動項目は、①Twitter の運用、② Slack における日常交流、③3 ヶ月に 1 度の定例ミーティングである。これらの活動は、大学の中では非公式に、すべてボランティアで運営されてきた。その優れた点は、自由な議論や助け合いの場が醸成されていったことであり、課題としては、専門分野や職位に関係なく醸成された協働の意識や企画があっても、非公式団体であるために活動資金（予算）がないために実現が困難であった点が挙げられよう。

3. Kumadai-Hub ポスターセッションの企画

Kumadai-Hub の活動が始まって間も無くからコロナ禍ということもあり、対面での活動が制限されたものの、そもそもキャンパスが点在していたこともあって、オンラインでの定例ミーティングが当たり前だった点は、多くの参画者にとって必ずしもデメリットばかりではなかったようだ。

2022 年 6 月に開催された JST 創発的研究支援事業「融合の場」熊本会場において、熊本大学国際先端医学研究機構（IRCMS）須田年生機構長が講演の中で団体名を紹介したことによって、多くの研究者・大学関係者が Kumadai-Hub の存在を知ることになった。Kumadai-Hub は、これを好機と捉え、企画をまとめ、大学執行部に提案を行うことにした。

Kumadai-Hub 内では、悩み相談や意見交換が盛んに行われていたものの、お互いの研究を詳しく知る機会がなかった。良くも悪くもメンバーの専門分野の幅が広く、よく話す人たち同士でも相手の研究内容は全く分からないということが当たり前だった。また、だからといっていわゆる研究紹介のプレゼ

ンテーションを実施することは誰も希望しなかったので、定例ミーティング等の交流の場ではもちろん、slack 内においても全体の場では、互いの研究内容を知る機会は設けられなかった。そこで、Kumadai-Hub メンバーは、研究内容を介した交流の場づくりのために巡回ポスター展を企画した。

巡回ポスター展は、参加対象を熊本大学のすべての教職員と学生に定め、企画と運営を Kumadai-Hub に所属するメンバーが実行委員会として担う。この提案は、大学執行部に受理され、予算を獲得し、巡回ポスター展は実施されるに至った。

4. むすびにかえて

Kumadai-Hub が企画した巡回ポスター展の大部分は、研究者のアイディアで支えられている。しかし、同時に、募集要項の作成や企画広報のための Web サイトや SNS の更新、備品の調達や予算管理、日本語と英語による運営がタイムラグなく行われている背景には、非職業研究者の存在がある。いわゆる研究支援職員、事務職員の経験と能力なくしては巡回ポスター展の実施は叶わなかっただろう。